



# 町田と江戸

ヒトとモノの交流史

2021  
7/17(土) - 9/5(日)

開館時間 9時～16時30分  
休館日 月曜日(休日の場合は翌日)

【アクセス】

- 鶴川駅  
5番バス乗り場より野津田車庫行・本町田經由町田駅行で「綾部入口」下車
- 町田駅  
小田急北口 POP ビル先の21番バス乗場から本町田經由野津田車庫行・本町田經由鶴川駅行で「袋橋」下車



入館無料



■記念講演会

「近世多摩地域の百姓と江戸出府」  
 講師 千葉真由美 (茨城大学教育学部教授)  
 日時 8月21日(土) 14～16時  
 会場 町田市民文学館ことばらんど大会議室

■出張展示解説

- ①7月30日(金) 14～16時  
会場 町田市民文学館ことばらんど大会議室
- ②8月18日(水) 14～16時  
会場 堺市民センター ホール  
講師 小林風 (当館学芸員)

いずれも定員50名、イベントダイヤルにて申込み。詳細はチラシ及びホームページをご覧ください。

町田市立自由民権資料館  
 (町田市公式) Twitter  
 @machida\_minken



町田市立自由民権資料館

江戸近郊名勝一画之図(小川・佐藤(寛)博家)

# 町田と江戸

## ヒトとモノの交流史

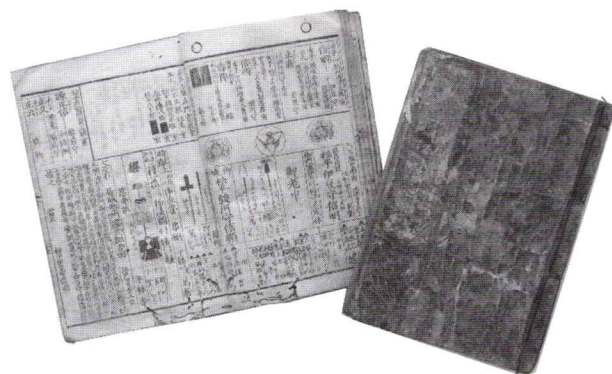
日本の高度成長期に誕生した町田市は、都心に近く交通の便も良いことから、典型的な“東京のベッドタウン”として発展してきました。多くの人びとが都心に働きに出て首都東京の経済成長を支える一方、こうした人びとからもたらされた都会の生活や文化は、町田という地域をかたち作るなかで、大きく影響しました。このように都市と町田市域は相互に影響し合う関係だと言えます。

互いの生活や文化の形成に影響を与えあう都市と周辺地域との関係は、天正18(1590)年に徳川家康が関東地方への領地替えを命ぜられ、領国支配の中心を江戸に置いたことに始まります。慶長8(1603)年、家康が征夷大将軍に就任し、幕府権力の確立にともない、江戸は政治都市へと成長し、江戸の町も発展してゆきます。

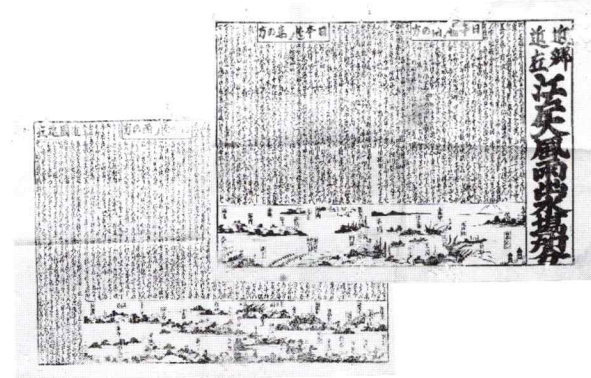
江戸は家康入部前から、陸上・水上交通の要衝として、相応の発展を遂げていましたが、急速に発展する江戸の消費需要を満たすほど成熟しておらず、大坂を中心とした上方の経済力に大きく依存していました。しかし18世紀前半の享保改革以降、江戸周辺地域を含む関東地方の村むらは、商品生産力を向上させ、徐々に江戸の大量消費を支える力をつけてゆきます。その結果、江戸の経済力は高まり、さらに人口も増加し、町人文化も栄えました。

日本橋からほぼ10里(約40km)圏内にあった町田市域の村むらは、幕府領や旗本領が多く、幕府のお膝元として、他の地域よりも大きな規制や負担を強いられることもありました。他方で、領主の御用や訴訟などで頻繁に訪れる場であった江戸は、奉公先や親戚が住む場でもあり、時に出店して経済活動をする場にもなるなど、身近な存在でもありました。こうした江戸と市域の村むらを行き来する人びとの江戸での見聞や経験は、村での生活にも大きな影響を与えたと考えられます。

今回の展示では、町田市域の村むらが、江戸の大量消費を支える後背地であったという側面とともに、相互の成長・発展に影響を与えていた点に注目し、巨大都市江戸とその周辺地域としての町田市域の関係についても紹介します。



改正文化武鑑 (小川・佐藤(晃)博家)



近郷近在江戸大風雨出水場所分

(下小山田町・若林照雄家)



江戸町鑑 (下小山田町・若林照雄家)

### 関連イベント申し込み方法

町田市イベントダイヤルにてお申し込み下さい。

☎042-724-5656  
7月21日(水)～受付開始  
【受付時間】7:00～19:00(初日のみ12:00から)

町田市イベント申込システム「イベシス」での申し込みも可能です。

■記念講演会  
イベントコード: 210721B  
■出張展示解説  
イベントコード: 210721A

イベシス  
QRコード



※二次元コード(QRコード)を読み取ることでイベシスへ簡単にアクセスできます。

## 町田市立自由民権資料館

〒195-0063 町田市野津田町897番地 TEL 042-734-4508

猿若町芝居之略図 (下小山田町・若林照雄家)